

# 24キロワットレーザー本稼働

## かねよし、厚板加工を強化

一般鋼材やステンレス、アルミの加工販売を行う、かねよし(本社||埼玉真川口市、吉田竜一社長)は発振器出力24キロワットの高出力ファイバーレーザー切断機を導入し、今夏から本稼働に入った。厚板加工の強化が主な目的で、対応板厚を最大40ミリまで引き上げることを実現。「能力的にはステンレスも含め、60ミリまで切れている」(吉田社長)として、引き続き板厚レンジの拡大に向けて加工技術を磨く。

### 40ミリ厚対応、非鉄も拡充

導入したのはトルンプ製の2次元レーザー加工機「Trulaser 5030 fiber 24kW」。同機は東日本では第1号の導入となった。従来は出力10キロワットのファイバーレーザー機が同社では最も出力の高い加工機で、対応板厚は軟鋼で最大30程度だった。設備仕様としては軟鋼、ステンレス鋼板、アルミ板ともに板厚40ミリまで、銅は同16ミリまで加工可能。同社では条件設定などの操業ノウハウを生かして、営業生産レベルでの40ミリ超の加工技術確立を目指す。高出力による加工スピードの速さも特長。老朽化したCO<sub>2</sub>レーザー切断機との入れ替えを行い、全社のレ

ザー加工能力の増強につなげた。トルンプ独自のエッジペル機能を搭載し、R形状の開先加工(面取り)や血もみ加工ができる点も生産性向上や受注拡大に寄与している。積極的な設備投資で加工領域の拡充と能力増強を進めてきたことが奏功し、2024年5月期の売上高は13億



導入した高出力ファイバーレーザー切断機①、ベンダーも7基体制に増強



板厚60ミリ迄と40ミリの切断サンプル

2000万円と10年前から倍近くに伸長。取引先の会社数は年間600社から1500弱まで増えた。レーザー加工の次工程の一つとなる折り曲げ加工も強化し、今年からベンダーをI基増設して7基体制としている。ただ、内需が頭打ちとなる中、取引先の数を「さらに増やすのは難しくなる」(吉田社長)。最近では「お客さまの幅を広げること注力している」として、設備投資を継続しながら加工領域を二層拡充していく方針。取り扱う材料についても「ステンレスやアルミ、その他の非鉄金属も増やして、特定の分野に偏らないようにしたい」と考え。 本社近隣に建設中の新工場は年内に完成予定。厚板加工や溶接のさらなる強化に活用する計画だ。

ル(岩井安良取締役工場 行ハ、自社でメンテナンス